

新潟焼山の火山活動解説資料（平成 31 年 2 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

噴煙活動及び地震活動は低下した状態が続いています。
しかしながら、新潟焼山はこれまでも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意してください。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 表面現象の状況（図 2、図 3-①、図 4、5）

噴煙活動は低下した状態で経過しています。今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上概ね 60m 以下で経過しました。

・ 地震や微動の発生状況（図 3-②、図 6～8）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。
火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 1、図 3-③④）

GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。
2016 年 1 月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016 年夏以降は停滞しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

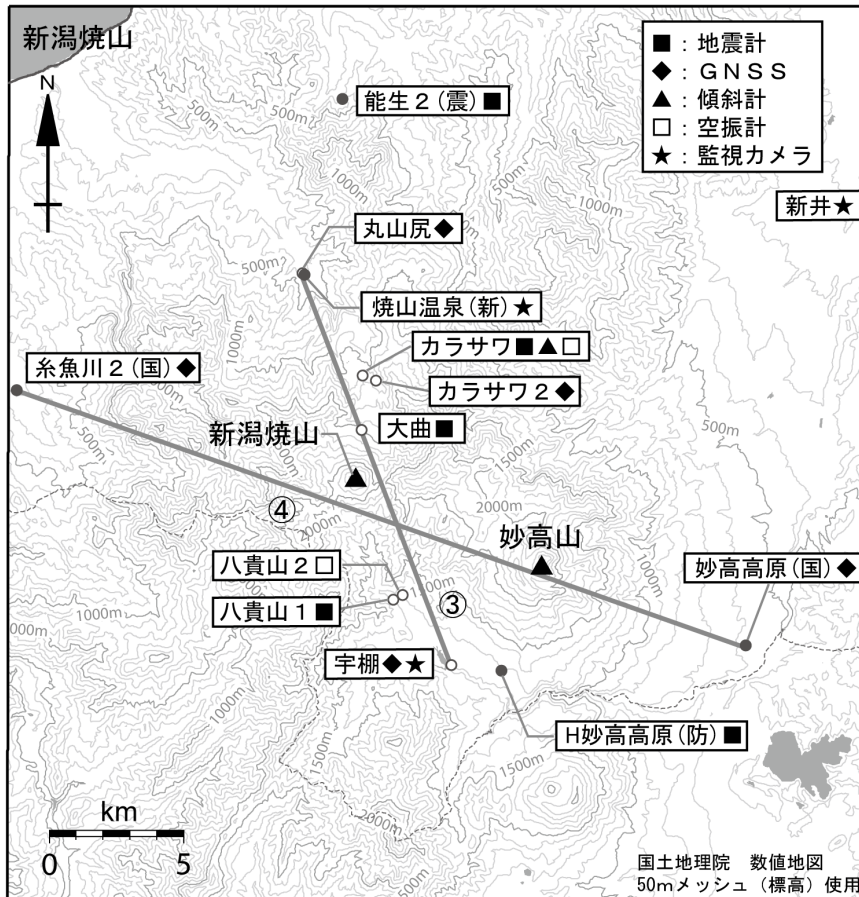
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 31 年 3 月分）は平成 31 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図 1 新潟焼山 観測点配置図
 (GNSS 基線③④は図 3 の③④に対応しています)

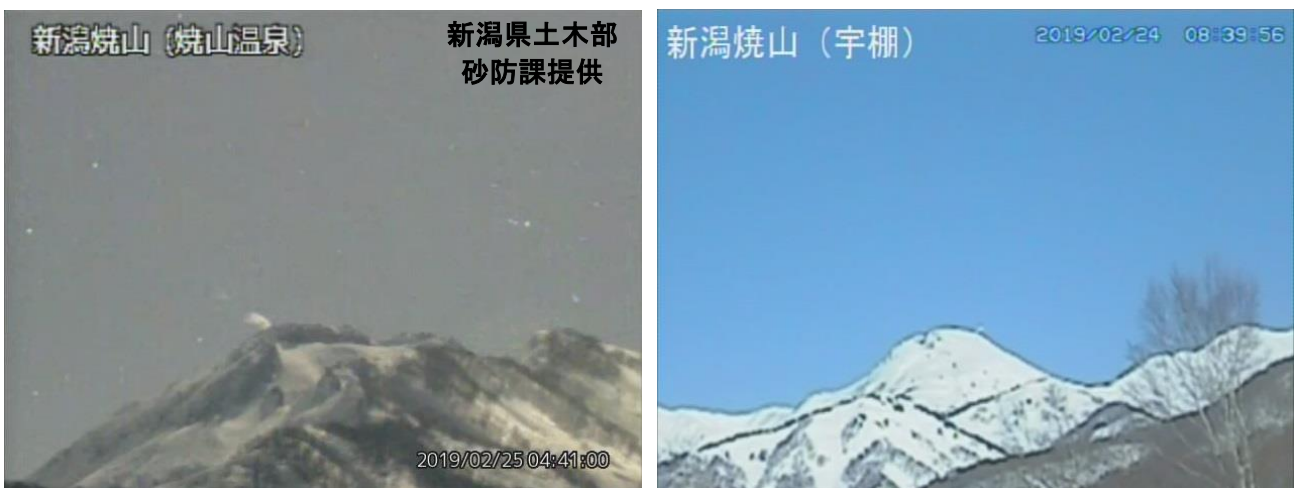


図 2 新潟焼山 山頂部の噴煙の状況
 (左：焼山温泉監視カメラ (2月25日)、右：宇棚監視カメラ (2月24日) による)

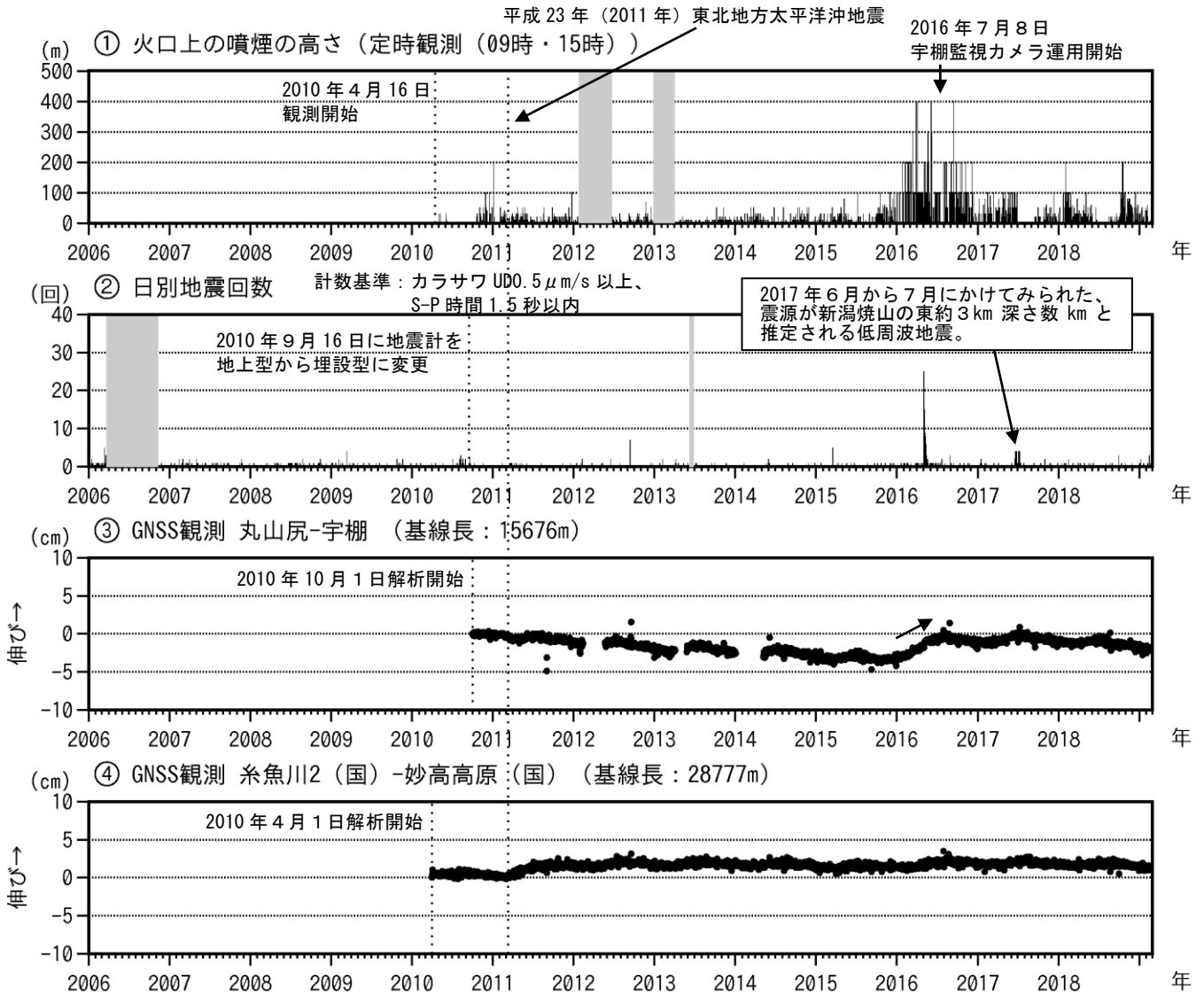


図 3 新潟焼山 火山活動経過図（2006 年 1 月 1 日～2019 年 2 月 28 日）

（国）：国土地理院

①②の灰色部分は機器障害による欠測を示します。

③④の空白部分は欠測を示します。

③④は図 1 の③④に対応しています。

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上概ね 60m 以下で経過しました。
- ・2017 年 7 月から 8 月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・③の基線で 2016 年 1 月頃から伸び（矢印）がみられていましたが、2016 年夏以降は停滞しています。

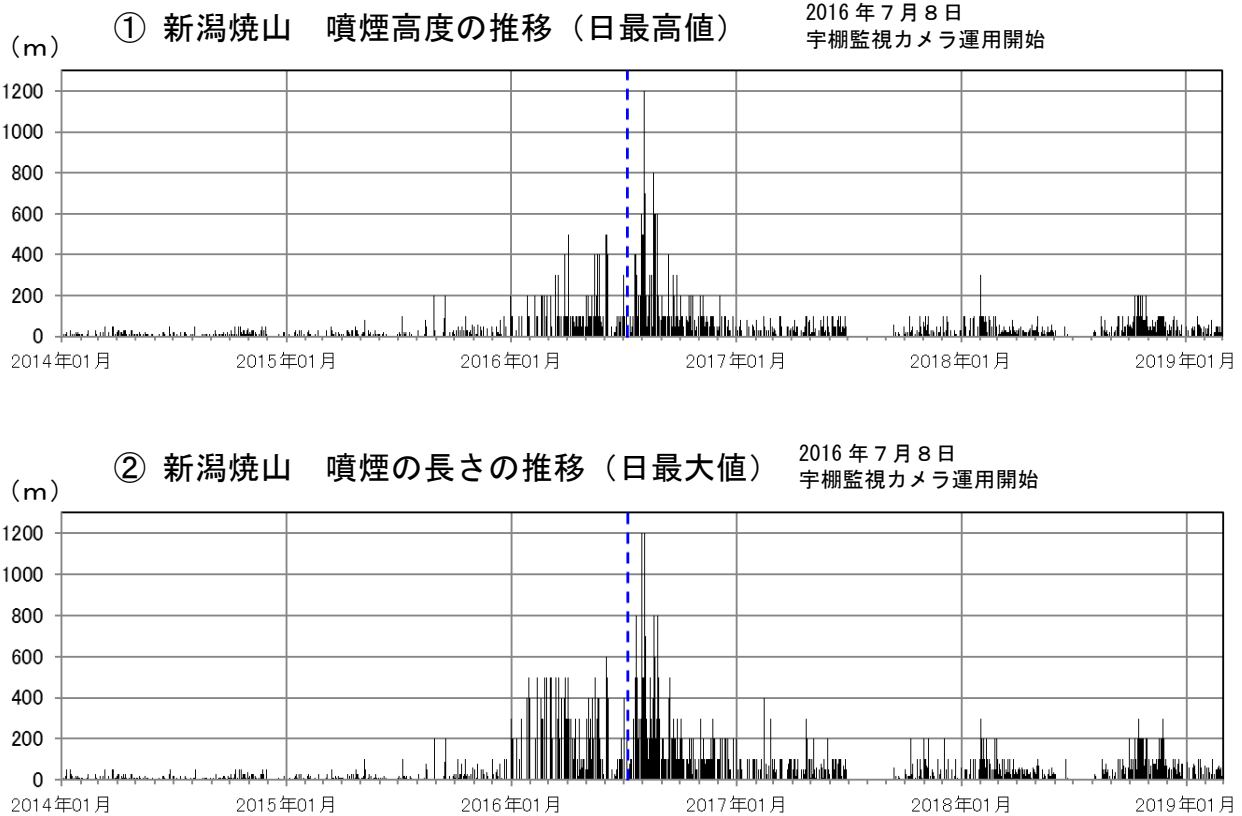


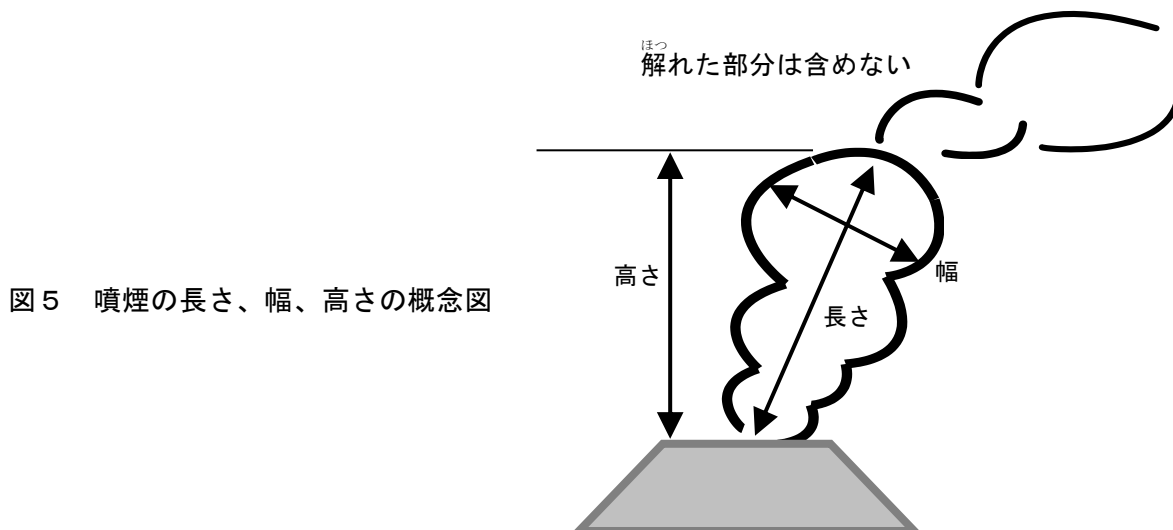
図 4 新潟焼山 噴煙高度と噴煙の長さの推移

（それぞれ日最高値及び日最大値、2014年1月1日～2019年2月28日）

噴煙高度は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（図5参照）のグラフも示しています。

2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました（宇棚監視カメラの位置は図1を参照）。それ以前は、最高値が確認できていないことがあります。

- ・2017年7月から8月にかけては、期間を通して視界不良のため山頂部が見えないことが多く、また観測できた時間帯も、山頂東側斜面からの噴気は観測されませんでした。
- ・2015年夏頃から噴煙はやや高く上がる傾向が認められ、2015年12月下旬からは噴煙量も多くなりましたが、気象条件により噴煙が高く上がる日はあるものの、2016年秋から噴煙高度は低下した状態で経過しています。



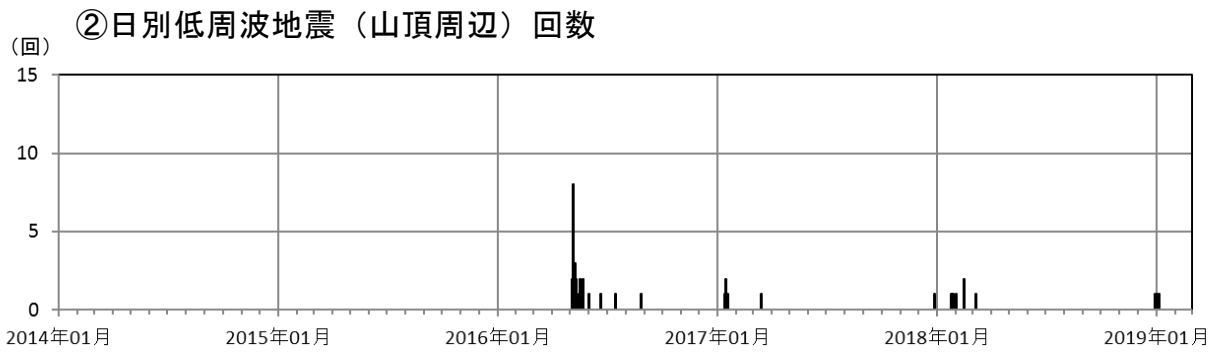
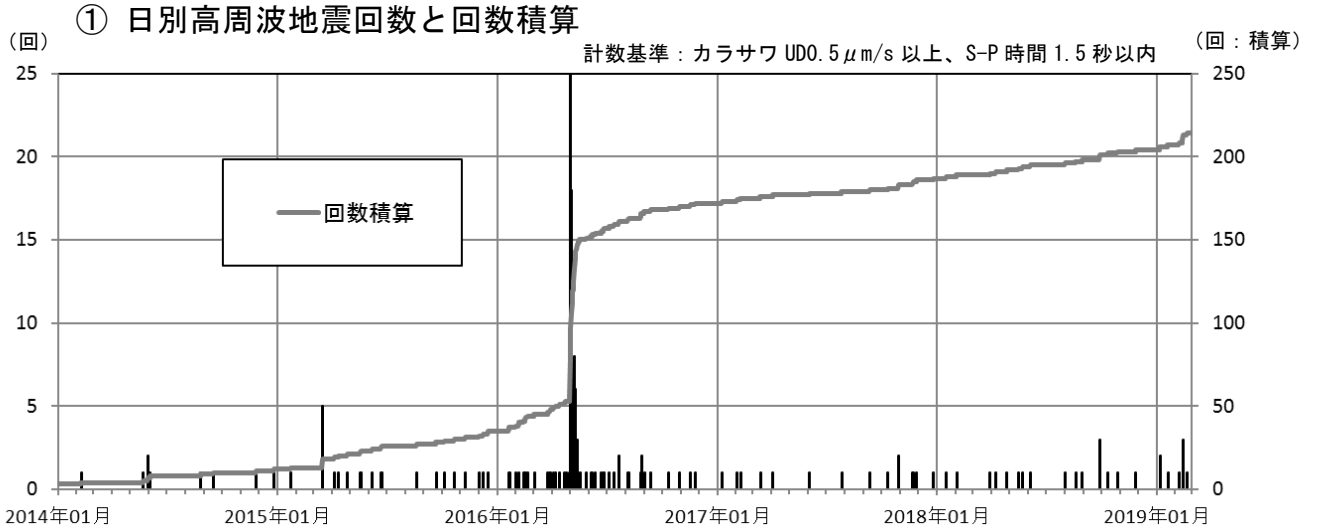


図 6 新潟焼山 日別地震回数（2014 年 1 月 1 日～2019 年 2 月 28 日）

地震の主な種類（図 7 参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・ 2016 年 5 月頃に火山性地震回数が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016 年 6 月以降、火山性地震は減少しています。

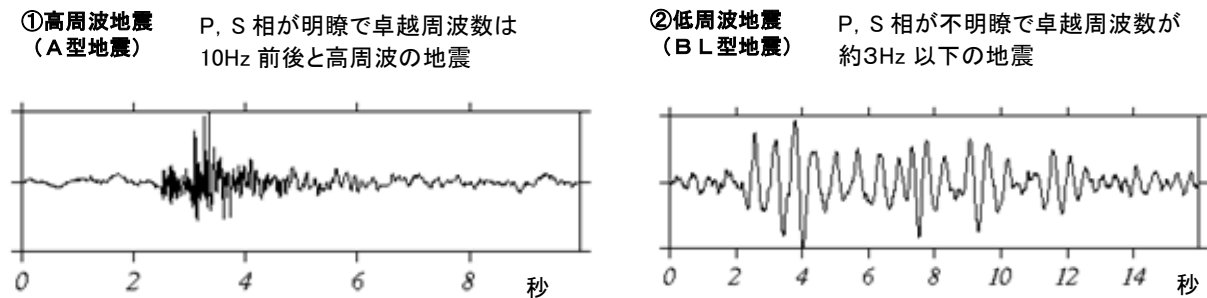


図 7 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

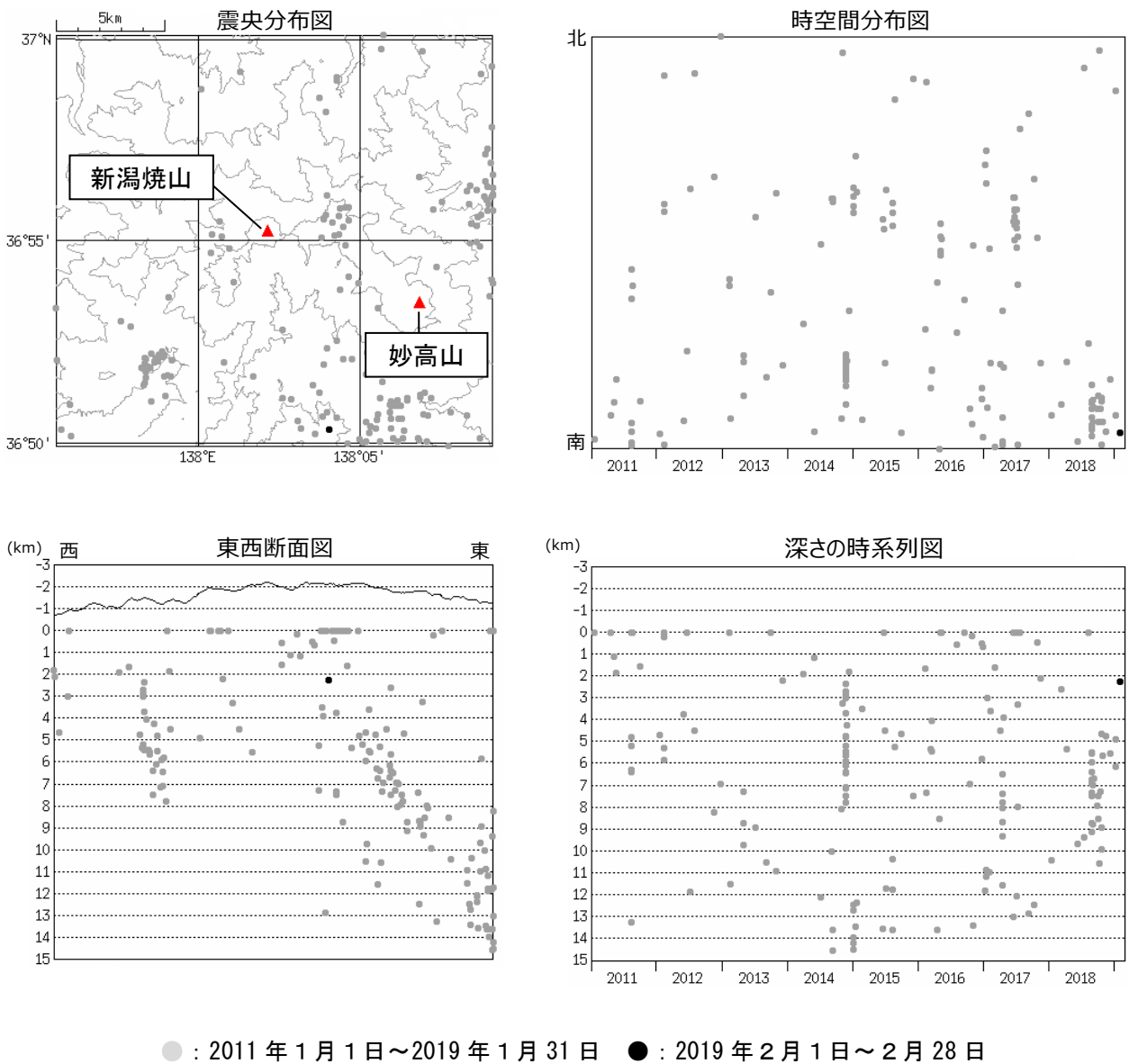


図 8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2019 年 2 月 28 日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

- ・今期間、新潟焼山周辺の地震は少ない状態で経過しています。